

聖書:ルカの福音書13章1～9節

説教:それでもだめなら、切り倒してください

はじめに

一年前のことになりますが、私の運転していた車が高速道路で急に止まってしまい、あわや大事故寸前ということがありました。このことをある同僚の先生に話すと、「小澤先生にはいろいろ起きますね」と言われたので、私は冗談で、「神社でお祓いしてもらいましょうか」と言ったことがあります。悪いことが起こるのは、悪い霊によるたたりとか、なにかの罪が原因であると考え、お祓いをしてきよめてもらう、そのような考え方が日本にはあります。実は二千年前のイスラエルの人たちも同じように考えていた。それが今日の箇所です。これに対し、イエスがどのように言われたのかを見ていきます。

1 災難と罪

1) ガリラヤ人

1節の最初に「ちょうどそのとき」とあります。前々回に触れたことですが、人と人が対立し分裂してしまったこの時代、こんな状態が続いたらどうなるか。そのままではあなたがたはさばかれてしまう。だから神と和解するように努めなさい。そういう話でした。今日の箇所は、それとつながりがありますので、まずこのことを押さえておきます。

1節。「ちょうどそのとき、人々が何人かやって来て、ピラトがガリラヤ人たちの血を、ガリラヤ人たちが献げるいけにえに混ぜた、とイエスに報告した。」ピラトはローマ帝国から派遣されている、イスラエルの実質的な支配者です。詳しい事情はわかっていませんが、おそらくローマ帝国に刃向かったのでしょう。それで処刑された人たちがいた。ところがそこで事件は終わらない。人々が神殿に献げるために用意していた動物の肉に、見せしめのために、処刑された人たちの血を混ぜた。聞いただけでも顔をそむけたくするような話しです。今ならテレビのワイドショーの格好の材料になるかもしれません。そこで人々はどうわさをします。処刑された後でこんなひどい目に遭うのは、きっとなにかひどい罪を犯していたのだろう。

2) エルサレムの住民

イエスはさらに、最近起きた災害のことを取り上げます。4節。「また、シロアムの塔が倒れて死

んだあの十八人は、エルサレムに住んでいるだけよりも多く、罪の負債があったと思いますか。」

エルサレムには、シロアムの池と呼ばれる石造りの貯水池が今も残っています。二千年前、ここにあった高い塔が何らかの理由で崩れ落ちてしまい、たまたまそこにいた十八人の人が亡くなる。そういう事故が起きた。やはりそのときも人々はどうわさをしました。あんな悲惨な死に方をするのは、きっと罪が深かったに違いない。

私たちはどうでしょうか。ニュースでいろいろな事故や災害で亡くなる方の話を聞くと、同じようなことを思ったことがあったのではないか。

3) 悔い改めないなら滅びます

そのような私たちに対し、イエスは3節と5節で二度同じことばを繰り返して言われます。「そんなことはありません。わたしはあなたがたに言います。あなたがたも悔い改めないなら、みな同じように滅びます。」

ポイントが二つあります。一つ目。私たちは神の前で悔い改めなければならない。これはすぐにわかる。

二つ目。シロアムで起きた災害で十八人が亡くなった時、人々は「あの人たちは特別に罪深かったに違いない」と考えた。これをもっとはっきり分かるように言い直すとこうなる。「あの人たちと私は違う。私は罪深くない。」自分がそれほど悪くないと思うことは、実に心地がよいのですが、イエスは容赦しません。事故で亡くなった人であろうがなかろうが、罪に関して言えば何も変わりはない。私は大丈夫と思って悔い改めないままなら、あなたは滅びていくのだと警告します。

2 たとえ話

1) 実を結ばない木を切り倒す

そんな話をしてから、イエスは一つのたとえ話をします。たとえ話とは、聖書の真理をわかりやすく説明する方法です。ですからここに登場するぶどう園の主人と番人は、架空の存在ではありません。実在する方を指します。既におわかりかも知れませんが、ぶどう園の主人は父なる神、番人はイエス・キリストを指します。

そのことを押さえてからたとえ話を見ていきます。主人はぶどう園の畑の一部にいちじくの木を植

え、実がなるかどうか三年間待っていたけれど、とうとう実を結ばなかった。それで番人呼んで、いちじくの木を切り倒すようにと命じた。実を結ばない木は、無駄に土地を占領しているだけですから、切り倒して別の木に植え替える。ぶどう園の主人の判断は当然です。

2) それでもだめなら、切り倒してください

ところが、番人はこう言うのです。8, 9節。「ご主人様、どうか、今年もう一年そのままにしておいてください。木の周りを掘って、肥料をやってみます。それで来年、実を結ばばよいでしょう。それでもだめなら、切り倒してください。」

番人は、なぜかもう一年待つて欲しいと願うだけでなく、木の周りを掘って肥料をやって一生懸命世話をしようと言うのです。実を結ばない木のために、普通はここまでしません。番人がどうしてここまでしていちじくの木にこだわるのか不思議です。でも説明がありません。

3) いちじくの木とは

番人がそこまでこだわるいちじくの木とは、いったいどんな木なのか。どうしても考えざるを得なくなる。もうおわかりだと思います。これは私たちを指します。どんな私たちかと言えば、事故や災害で悲惨な死を遂げた方がいると、あの人たちは罪深かったにちがいない、でも自分はそうではないと考える。悔い改めるべきはあの人たちで、自分はそんなことをする必要はないと思込んでいる人たち。神の目からご覧になると、そういう人たちはいつまで経っても実を結ばない木なのです。ですから、切り倒されてしまっても文句を言えない。

3 イエス・キリスト

1) 父なる神のさばき

こう言うと反論があるでしょう。「実を結ばないから切り倒すとは、なんて厳しい神だ。そんな神など絶対に信じたくない。」

この意見が正しいのかどうか、例えば車を運転していて事故にあったときことを考えてみましょう。自分が青信号で交差点に入ったとします。そこへ右側から、信号を無視をした車が猛スピードで突っ込んできて衝突し、車は大きく壊れ自分も大けがをし、重い後遺症が残った。後で聞くと、相手の運転手は酒に酔っていた。こんな目にあつて落ち着いていられる人はいるでしょうか。相手は厳しい罰を受けるべきだと腹の底から怒るはずで

では、神の側から私たちはどのように見えているのか。酒に酔って猛スピードで赤信号の交差点に突っ込み、相手を傷つけておきながら、反省もせず、悔い改めもしない。神の側からご覧になれば、そう見えている。それで実を結ばない木だと言っている。ところが、神がそんな木は切り倒すのだと聞くと、「神は思いやりのない、厳しすぎる」と言うのは、実に身勝手な意見だということがわかります。神は、間違ったことを間違いだと言って正そうとする。至極当たり前のことをしているだけなのです。

2) 木の周りを掘って

普通はそこで話しは終わります。ところがいま見たとおり、番人、すなわちイエス・キリストは、もう一年待つて欲しいと願う出て、私たちが実を結ぶことができるよう世話をしてみようと言ってくださいます。いま、世話をするといいました。具体的には、木の周りを掘って肥料をやることですが、これはあくまでもたとえです。実際は何をしたのでしょうか。この方は、今人々に悔い改めるようにと語っています。もし悔い改めなければあなたがたは切り倒されてしまうと警告しています。これが世話をすることの一つでしょう。では、それだけでしょうか。

3) どの木が切り倒されたのか

今日の箇所のコア部分はこちらからです。イエスは私たちが救われるようにと一生懸命世話をしてくれた。その結果はどうなったか。私たちは実を結んだのでしょうか。

聖書によれば、イエスが病を癒やし、悪霊を追い出し、数々の奇跡を行った時、人々は歓喜しながらホサナ、ダビデの王と叫び、イエスに従う者たちがどんどん増えていき、たくさんの実を結んだかのように見えた。ところが、イエスが十字架におかかりになった時、どうなったか。あれほどイエスを喜んで迎えた人たちが、手のひらを返すようにして「十字架につけろ」と叫び、嘲って行く。弟子たちも、親分のためならたとえ火の中水の中と啖罵を切っていたのに、十字架を見た途端怖くなって、全員一目散に逃げてしまった。まったく実を結ばなかったことになる。

このたとえ話は一年間世話をしてみます、というところで終わっていて、結末がどうなったか書いていない。いったいどうなったと思いますか。私たちは結末を知っているのです。

折角一年待ったのにまったく実を結びません。そうしますと約束どおり、いちじくの木は切り倒されたはずです。では、いったいどの木が切り倒されたのでしょうか。一目散に逃げた弟子たちでしたか。いいえ、彼らは無事でした。イエスを十字架につけると叫んだ人たちですか。いいえ、彼らも無事でした。では、いったいどの木が倒されたのでしょうか。実を結ばない私たちに代わって、イエス・キリストが切り倒されました。

4) 実を結ばない責任を引き受ける

まさかと思いますか。イエスはなんと仰いましたか。あなたがたはあの事件や事故で悲惨な死に方をした人たちのことを、自分とは関係ないと思う生き方こそ罪深いことだと言い、すぐに悔い改めなさいと警告していました。このように語った方が、実を結ばないいちじくの木とご自分とは関係がないと思っているのでしょうか。いいえ、違います。この方は私たちと同じ姿となられ、罪のない方なのに、罪があるかのように振る舞ってくださいました。いちじくの木が実を結ぶことができるようにと、木の周りを掘って肥料をやる。その肥料となったのがイエス。いちじくの木の上に掘られた穴に埋められていく。実を結ばないという責任を私たちが追うべきであったのに、この方が引き受けてくださり、ご自分のからだを献げてくださったのではないですか。

それでも神は厳しいと言うのでしょうか。とんでもない。神はここまでしてくださる。神ご自身がいのちを投げ打って、私たちを救おうとされている。人の罪には敏感なのに、自分の罪となると実に鈍感で悔い改めることが難しい私たちなのに、それでもこんな私たちを愛し、救おうとされている神を見上げたいと願います。